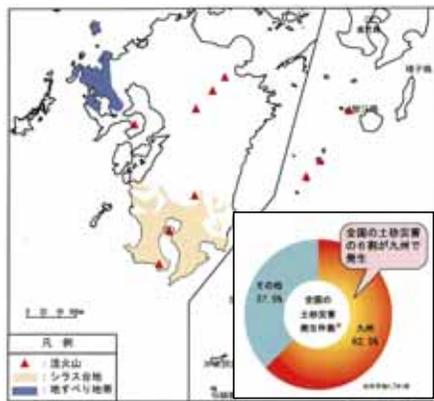


参考資料2 他の検討小委員会の検討状況等について

生活の安全と豊かな環境を目指す検討小委員会における検討状況等について

九州圏を取巻く状況について

傾斜地や火山が多く特殊土壌地帯が分布
気候変動による海面上昇や集中豪雨の不安定化
甚大な水害や土砂災害等の被害が多発する傾向



九州圏の状況について

温暖(平均気温20℃)な気候
世界有数の阿蘇カルデラ、世界遺産の屋久島など
豊かで美しい自然
豊富な植生の自然公園が圏土全体に広がる



ゲストスピーカーからの提言

「資源循環に基づく暮らしの再設計と自立圏域の設定」
島根県中山間地域研究センター
主任研究員 笠松 浩樹 氏

- 消費社会の終焉
持続可能な社会システムの構築
自給圏域を目指す
- 中山間地域における発想転換
資源を有効に活用する条件整備
都市住民や企業のチャレンジ



これまでの議論で見えてくる将来イメージ

コミュニティが再生し、地域防災を担う人材が
継続的に確保された安全・安心な地域の形成



地縁型コミュニティの再生
防災・減災、災害復旧、地域づくり等
における地域の担い手の育成(世代交代)



行政の責務としての
防災情報の的確な把握・提供、災害弱者への対応



行政が、防災情報の的確な提供や災害弱者への
対応等のセーフティネットを担い安全・安心で
できる地域を形成

地域社会を営む上で必要な活動や防災対策と環境
が両立したバランスの取れた循環型社会の形成



生活の安全と豊かな環境における基本的整理

検討の視点

減災の視点を重視した災害対策の推進:
九州圏は、わが国の中でも特に災害の多い地域
であることに鑑み、災害が発生した場合にも被害
を最小限に抑える「減災」の視点
自然環境と人間を取巻く社会活動と一体化
した圏土構造の形成:
九州圏の豊かな自然環境を継承するため、自然
環境だけでなく人を取巻く社会活動を含めた環境、
共生を図る視点
九州圏の多様な主体による形成:
多様なライフスタイルを実現するため、多様な
主体の参加、参画による個性と魅力ある九州圏の
形成を目指す視点

議論の進め方

情勢の転換、新しい価値への対応(第2回議論)

- 災害の要因となる自然外力から守る「防災」から災害が発生した場合にも被害を最小限に抑える「減災」の視点に関する議論
- 豊かな水資源、自然環境、景観等への関心の高まりへの対応に関する議論

九州圏特有の課題への対応(第3回議論)

- 中山間地域、離島半島の高い割合や東アジアと地理的隣接性等の特性を踏まえた課題への対応に関する議論

他の論点は必要に応じて議論

9つの論点

- 論点1 近年の気象変動等に備えたハード対策の推進
- 論点2 減災の視点を重視したソフト対策の推進
- 論点3 安全・安心を確保する九州圏の圏土構造の形成
- 論点4 中山間地域、離島等におけるサービスの確保
- 論点5 安全・安心な食を支える九州圏の継承
- 論点6 多様で美しい調和のとれた九州圏の保全と継承
- 論点7 国際的な環境問題への取り組み
- 論点8 流域圏における健全な圏土利用と水循環系の構築
- 論点9 海洋・沿岸域圏の総合的な利用と保全

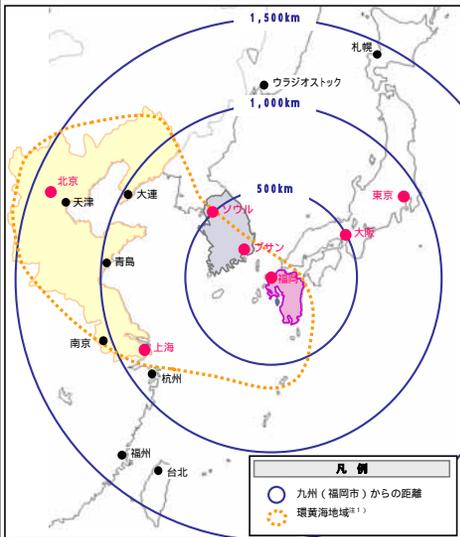
主な議論の内容

- 少子高齢化社会における災害対策
 - コミュニティ衰退への対応は、災害弱者や建物の危険性の事前把握が重要
 - 地域防災を次世代につなげていくには、若年層の担い手育成が必要不可欠
- 減災に向けた情報の重要性
 - 行政における正確な情報収集、適切な提供が第一
- 迅速な地域復興の観点からの災害復旧
 - 防災・減災だけでなく、被災施設の復旧や漂着物の撤去等の事後処理も重要
- 効率的な物質循環系の構築
 - 森林保全にはバイオマス利用等の有効利用を検討すべき
- 環境、安全等に対する意識の二極化
 - 環境、安全に対して極端に意識が高いが無関心かの二極化が進み問題
 - 災害を発生させない開発レベルや森林等の保全が必要

活力ある経済社会を目指す検討小委員会における検討状況等について

九州圏を取巻く状況について

九州圏と東アジアの地理的接近性
経済的な結びつきが強まる環黄海地域



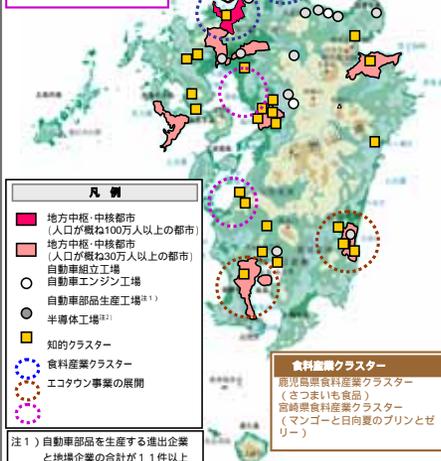
注1) 環黄海地域：
日本(九州)
中国(遼寧省・河北省・山東省・江蘇省・北京市・天津市・上海市)
韓国(京畿道・忠清南道・全羅北道・全羅南道・慶尚南道・仁川市・大田市・光州市・釜山市)

九州圏の状況について

知的クラスター創成事業
福岡システムLS設計開発クラスター
北九州ヒューマンテッククラスター

産業クラスター計画(九州全域)
九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(北九州)
九州シリコン・クラスター計画

エコタウン事業の展開
北九州エコタウン
大牟田エコタウン
水俣エコタウン



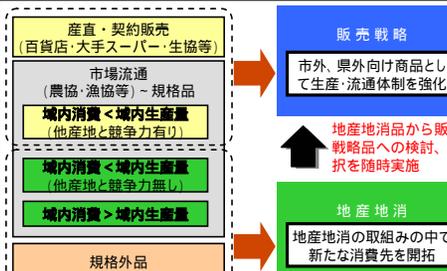
注1) 自動車部品を生産する進出企業と地場企業の合計が11以上の市町村を表示
注2) 半導体デバイス(前工程)、フラットパネルディスプレイ、シリコンコウエハに関するメーカーを表示
出典) 財団法人九州経済調査会(編)「九州産業誌本」等により作成

ゲストスピーカーからの提言

「活力ある経済社会を目指す九州圏がやるべきこと」
財団法人がさき地域政策研究所
常任理事 菊森 淳文 氏

- 「九州圏」戦略の明確化
ファームランド(高付加価値農業化)
フードランド(安心・安全な食の提供)
観光ランド(豊富な地域資源を活かした観光基地化)
地域ブランドの確立

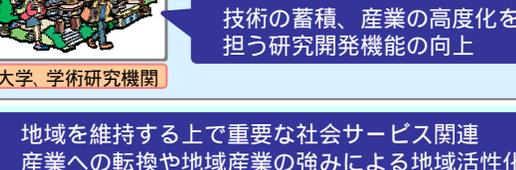
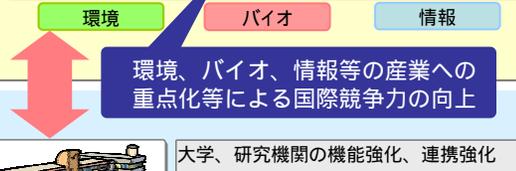
地域ブランドの確立における販売戦略と地産地消の考え方



競争力=商品の品質・価格・ブランド等他地域商品との比較優位性
規格外品=大きさ・計上・季節・魚種等の点で市場流通に乗らないもの

これまでの議論で見えてくる将来イメージ

地理的条件や集積産業が担ってきた役割から
国内外の企業の自発的な立地等を促す九州圏



活力ある経済社会における基本的整理

検討の視点

東アジアの中での九州圏の個性と魅力の創出：
経済成長の著しい東アジアと隣接する九州圏として、東アジアとの交流・連携を深め、東アジアの中で個性と魅力を創出し、発展を目指す視点
自立的な発展を形成する地域力の結集：
地域特性、伝統文化等の地域特有の魅力を活かした産業の創出、振興を目指し、それらが相まって九州圏の総合力が向上・活性化するという好循環を生み出す視点

議論の進め方

九州圏の産業振興と発展(第2回議論)

- 東アジアにおける著しい経済成長と連動しながら自立的な発展を実現するための議論
- 九州圏における産業発展の方策に関する議論

産業振興を支える環境の構築(第3回議論)

- 九州圏の産業振興を支える人材、産業構造等の産業を取巻く環境に関する議論

他の論点は必要に応じて議論

8つの論点

- 論点1 産業集積を活かした新たな産業展望
- 論点2 新産業を核とした産業振興
- 論点3 ものづくり基盤の強化
- 論点4 観光資源等による魅力創出
- 論点5 東アジアの玄関口としての社会基盤の整備
- 論点6 持続的な成長を牽引する都市圏の形成
- 論点7 多種多様な人材が集積する産業構造の形成
- 論点8 農林水産業等の地域を支える産業の振興と安定的発展

主な議論の内容

産業集積を活かした新たな価値の創造

- 自動車産業と半導体産業の融合やそれらの技能・ノウハウを活かした環境問題解決型の産業振興等の新たな視点が必要

企業進出上の九州圏の位置づけの明確化

- 国内外を見据えた九州圏への企業進出、マザー工場化などの優位性を確認すべき

環境、バイオ、ICT等の成長産業の育成

- 環境・バイオ・情報等はこれからの成長産業として重要
- 静脈物流や新産業創出における情報(コンテンツ)の重要性を認識すべき

研究開発機能の強化

- 大学を含めた研究開発機能を強化すべき
- 地域を支える産業振興

- 経済を支えてきた中核企業も議論すべき
- 地域産業は衰退しても技術を活用した新産業の創出は可能
- 建設業等の構造転換や水産業の販路拡大等も検討すべき

各検討小委員会の論点整理から見える九州圏の将来イメージ

九州圏の課題への対応の方向性 (「キックオフレポート骨子案構成図(案)」より)	検討小委員会 における論点
(1) 東アジアの中での九州圏の個性と魅力の創出 東アジアとの結びつきと九州圏産業の強化 <ul style="list-style-type: none"> 産業集積を活かした新たな産業展望 新産業を核とした産業振興 ものづくり基盤の強化 東アジアに開かれた交流・連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> 東アジアにおける九州圏の自立と連携 観光資源等による魅力創出 東アジアの玄関口としての圏土構造の転換 <ul style="list-style-type: none"> 東アジアの玄関口としての社会基盤の整備 	活力 活力 活力 自立 活力 活力
(2) 自立的な発展を形成する地域力の結集 それぞれの地域独自の魅力を活かした地域の形成 <ul style="list-style-type: none"> 地域資源の発掘、再評価、磨きによる地域力の強化 多様な機能が集積する都市と自然豊かな地域の互恵関係の形成 持続可能で暮らしやすい都市圏の形成 <ul style="list-style-type: none"> 美しく暮らしやすい農山漁村の形成と農林水産業の新たな展開 自立的な地域の機能補完的・戦略的な連携 <ul style="list-style-type: none"> 維持・保全が危ぶまれる集落における将来選択 持続的な成長を実現する九州圏の形成 <ul style="list-style-type: none"> 持続的な成長を牽引する都市圏の形成 多種多様な人材が集積する産業構造の形成 地域を支える産業の振興と安定的発展 <ul style="list-style-type: none"> 農林水産業等の地域を支える産業の振興と安定的発展 	自立 自立 自立 自立 自立 活力 活力 活力
(3) 災害に強く暮らしやすい九州圏の形成 減災の観点を重視した災害対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> 近年の気象変動等に備えたハード対策の推進 減災の観点を重視したソフト対策の推進 日々の暮らしを支える安全・安心の確保 <ul style="list-style-type: none"> 安全・安心を確保する九州圏の圏土構造の形成 中山間地域、離島等におけるサービスの確保 安全・安心な食を支える九州圏の継承 	安全 安全 安全 安全 安全
(4) 世界に誇れる美しい九州圏の形成と継承 循環と共生を重視した美しい九州圏の形成 <ul style="list-style-type: none"> 多様で美しい調和の取れた九州圏の保全と継承 国際的な環境問題への取り組み 美しい九州圏を支える水循環系の形成 <ul style="list-style-type: none"> 流域圏における健全な圏土利用と水循環系の構築 海洋・沿岸圏の総合的な利用と保全	安全 安全 安全 安全
(5) 多様なライフスタイルを実現する地域づくり 多様なライフスタイルを実現する取り組みの推進 <ul style="list-style-type: none"> 多様なライフスタイルを実現する交流・連携と定住の促進 住民主体の発意・活動による自助努力による地域づくり ゆとりある子育て環境の創出 地域の子育て力の強化 	自立 自立 自立

導き出される3つの九州の将来イメージ

東アジアの成長と連動し自立的に発展する九州圏の形成

自然と共生し美しく暮らしやすい九州圏への再構築

多様で厚みのある活力あふれる九州圏の形成

東アジアの成長と連動し自立的に発展する九州圏の形成

- 東アジアをはじめとする諸地域との交流連携の推進
- 東アジアの中での地域の個性と魅力、国際機能等を捉え直していく
- 重要性高まる東シナ海の活用や諸問題の解決に向けた広域的な取組の推進 など

東アジア成長を意識し自立的に発展する圏土構造への転換

多様で厚みのある活力あふれる九州圏の形成

- ブロックの成長のエンジンとなり得る都市及び産業の強化を促進
- 相互依存・補完関係にあるブロック内の各地域が互いに交流・連携を促進
- 安心して住み続けられる生活主体の産業・活動環境の創造
- 各地域において多様な主体の共同を促進
- 経済力だけでなく文化面や社会面を含めた地域力の結集 など

九州圏内で多様で厚みのある活躍の場の形成と活力の創出

自然と共生し美しく暮らしやすい九州圏への再構築

- 自然豊かで歴史文化を育む地域や都市のにぎわいなど多様で特色ある地域の形成
- それぞれの魅力を發揮し、相互に補い合って重層的に圏土を形成
- 地域間の互恵関係を維持発展
- 良好な自然環境や美しい景観の形成
- 安全かつ快適でゆとりある生活空間の形成
- 高齢化社会等に柔軟に対応した暮らしへの取組みの推進
- 環境負荷の低減 など

安全・安心で環境へ配慮した暮らしやすさを兼ね備えた圏域の形成

